

子どもを守るために



夏がやってきました。明るい時間が長くなると、子どもは外遊びに夢中になって、家に帰るのが遅くなってしまいがち。おうちの方は少し心配しながら帰りを待っているのではないのでしょうか。

残念なことに、子どもをねらった犯罪がたくさんおきています。私たち大人は、子どもたちが安心して過ごせる安全な町づくりをしていくのはもちろんですが、危険を事前に予測し、未然に防ぐ方法を子どもたちに伝えていかなくてはなりません。

日頃から子どもたちに気をつけてほしいポイントを簡単にまとめました。ぜひご家庭で子どもたちに伝えてあげてほしいと思います。

自分自身を守るために

身を守る基本は**逃げる**こと。でも、**危険に出会う前**に逃げることであればもっと安全です。危険に出会う前に逃げるには、犯罪が起きやすい場所がどのようなところなのかを知り、そこに**近づかない**ことが大事です。そして目や耳を使って周りの危険や異変を素早くキャッチできるよう、いつも注意するようにしましょう。

①危険な場所を知っておく。

- ・人がいないところ、暗いところ…危険がせまってもみんなに気づいてもらえない。
- ・人がたくさん集まる場所…ゲームセンターやお祭会場など。悪い人がまぎれこみやすい。
- ・**1人にならない**…どうしても1人になってしまうときは、そのことを家の人に連絡する。



②危険をすばやく察知しよう！

- ・いつもと違うことに気づく…知らない人が声をかけてきた、見かけない車が停まっている。
- ・距離をとろう…知らないひとが近づいてきたら、相手が手をのばしてきても届かない距離**《互いに手を広げても届かない距離》**を意識する。(右写真参照)

- ・後ろにも注意…誰かが後ろをついてきていないか、振り返ってみよう。

③危険に出会ってしまったら！

- ・**とにかく逃げる**、声を出す、防犯ブザーを鳴らす。
- ・知らない車が近くで停まりそうになったら…**車の進行方向とは違う方**に逃げる。
- ・体をつかまれたら…すばやくしゃがみこんで、腕をすりぬけ、反対方向に逃げる。



CAPワークショップの場面から

相手の**足の甲**を思いきり踏む。手の小指を逆に曲げる。かみつく。

④ひとりでの留守番

- ・ドアを開けない…鍵をかけて、誰かが来てもドアを開けない。**ひとりきりを悟らせ**ないようにする。
- ・誰もいない家に入るとき…誰かがついて来ていないか後ろを確かめ、チャイムを鳴らし、中に人がいるように「ただいま」と声をかけて入る。鍵は人から見えないところに持ってこよう。

イカ…知らない人についていけないの…知らない人の車にのらない
お…おお声で叫ぶ
す…すぐに逃げる
し…人にしらせる



「イカのおすし」

「イカのおすし」という言葉を聞いたことはありますか？

小さな子どもにも覚えやすく分かりやすい、連れ去りなどを未然に防ぐための合言葉です。子どもたちに守ってほしいことの頭文字をとってつなげ、学校や防犯教室で指導しています。

園や学校では、いざというとき子どもたちを守るために、先生たちもいろんな研修を受けています。

1月に恋野小学校で開催された教職員向け CAP ワークショップは、「子どもを守るために大人に何ができるか」という研修会でした。後日行われた児童向け CAP ワークショップでは、いじめや誘拐などの暴力から身を守る方法を一緒に考え練習しました。



教職員ワークショップの様子



恋野小学校

★**CAP**とは (Child Assault Prevention)
子どもがいじめ、誘拐などのさまざまな暴力から自分を守るために何ができるかを、ワークショップ(参加型学習)形式で行う。怖がらせることなく楽しみながら、子どもが自ら考え、ロールプレイ(寸劇)に参加し、話し合いを通して、暴力の対処法を具体的に学ぶアメリカ生まれのプログラム。
幼稚園・保育園の子どもには、歌や人形を使って行っている。

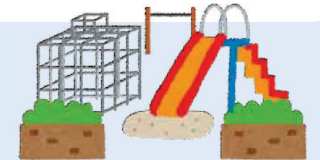
子どもを守るためにできること

日頃からご家庭で、防犯について話をしてください。

時間のあるときに、子どもと家の周りを歩いてみませんか。危険い場所を確認し、いざというとき逃げ込めるように「きしゅう君の家」を探しておくのもいいですね。お店の人の顔や近所の人などお互いに知り合いになって、見守ってくれる人をたくさんみつけてあげましょう。

また子どもが出かけるときは、「誰と」「どこへ」「何をしに」「何時に帰る」などの声かけをしてください。ふだんからいつもと違ったところがないか、子どもの様子を注意して見てあげてください。

子どもを取り巻く危険はたくさんあります。でも心配しすぎてばかりでは子どもを怖がらせてしまうことになりかねません。心構えや訓練を積んでいけば、必要以上におびえる必要はないこと、周りには守ってくれる大人もたくさんいることを、合わせて伝えてあげてください。



子育て **はっぴい あとばいす**



支援チーム員「ちよっちゃん」

★子どもたちを守るために、おうちの人へ

危険な目にあっても、ほめられることではないと思ったり、家族を悩ませてしまうと思ったり、黙ってしまう子もいます。食事の様子、眠りの様子、おしゃべりがはずまない…いつもと違うと思ったら、声をかけてあげてほしいのです。**あなたのことを大切に思っているよ**のメッセージを伝えてほしいのです。もし何でもないときであっても、このメッセージは子どもの心の中に残ります。子どもを支えてくれるひと言になりますよ。

★子どもたちを守るために、たくさんの大人の人へ

家読コーナーで紹介させていただいた本の中に、こんな後書きがありました。

『見知らぬ子どもに声をかけたら、その子が返事もせずに逃げ出しても気を悪くしないでください。その子は危険回避を教えてもらっているんだなと思ってください。そして、困っている子がいたら、懲りずに声をかけてください。』

子どもたちを守るために、しなやかに強く、そしてあたたかい気持ちを持ちたいと思いました(♡v)v